変わる時代の確かな視点

News Release

マスク着用が
表情認識と感情伝播に及ぼす影響を
大規模オンライン実験で検証

2025 年 12 月 1 日

株式会社ニッセイ基礎研究所は、大人（937 名）と子ども（小中学生 807 名）を対象とした大規模オンライン実験により、マスクの笑顔認識と感情の伝播（情動伝染）への影響を検証致しました。この結果、マスク着用により笑顔認識が低下すること、および、その影響は大人（特に成人男性）の間で顕著であることが確認されました。また、情動伝染を阻害する影響は、子どもの間で顕著であることが確認されました。

本研究成果は 2025 年 12 月 1 日に『行動経済学』（英語誌名：*Journal of Behavioral Economics and Finance*）に掲載されました。

■ 研究の背景

一般に、コミュニケーションでは、表情や声といった非言語情報が重要な役割を果たします。また、人は他者の感情表現に無意識に同調することがあり、これを「情動伝染」と呼びます。コロナ禍では、マスク着用の広まりを受け、コミュニケーションへの影響や子どもの発達への懸念の声があがりました。しかし、子どもへの影響についての実証研究は限られており、特に、情動伝染への影響は十分に検証されていませんでした。そこで本研究は、マスク着用が笑顔認識や情動伝染に及ぼす影響を、大人の観察者と子ども（小中学生）の観察者の双方を対象に体系的に検証しました。

■ 研究の方法

本研究では、オンライン実験により、大人 937 名と小中学生 807 名を対象に、男性、女性、男児、女児の計 4 名の表情写真（笑顔／無表情 × マスク有無）16 枚（図 1）の中から 1 枚をランダムに提示し、表情認識および前後の感情変化を測定しました。提示条件はランダム化することで、マスクの笑顔認識と感情への影響を捉えることができる設計としています。実験は 2022 年 10 月に実施されました。

図 1. 実験に使われた画像
(写真は PIXTA より。マスクは研究者が加工し挿入)
出典：行動経済学 18 巻（2025）pp.114-130

■ 成果のポイント

1. マスクが笑顔認識を阻害する傾向。その影響は観察者が大人（特に成人男性）の場合顕著

マスク着用が、観察者の笑顔認識を阻害する傾向が確認されました（図 2、平均）。

大人の観察者は子どもの観察者に比べ、無表情として用意したマスク無の画像から「軽い微笑み」を、微弱な手がかりに敏感に反応して読み取っている可能性が示唆されました。それに伴い、マスクで一部情報が遮断されると、無表情画像を見た際に、大人の観察者の間で笑顔認識の低下が顕著に見られました（図 2、観察者が大人と観察者が子どもの比較、平均・無表情）。男女別の詳細な分析では、この傾向は成人男性の観察者の間で特に顕著であることが確認されました。

2. マスクが笑顔認識を高めるケースもある

マスクは大人が観察者の場合も子どもが観察者の場合も、全体としては笑顔認識を阻害する傾向が見られましたが、一部のケースでは、無表情の顔が“むしろ笑っているように”見える効果も確認されました（図 2、女児の無表情を見たケース）。

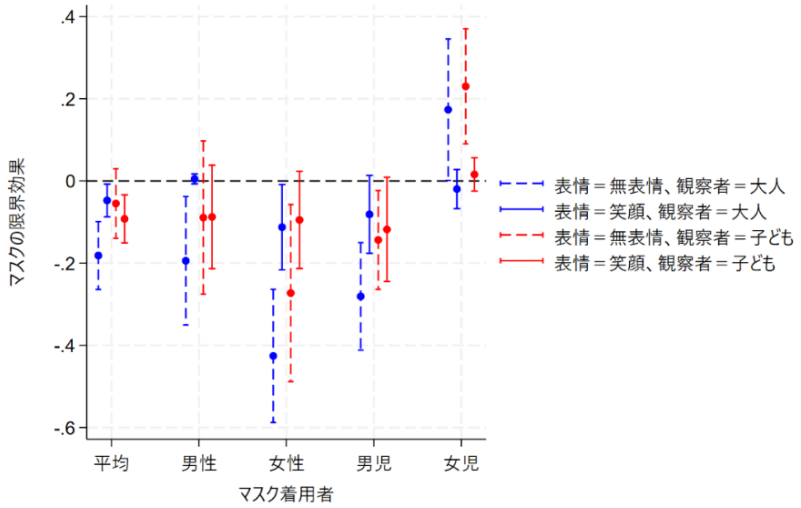

図 2. マスクの笑顔認識への影響（95%信頼区間）

（注: ここでのマスクの限界効果は、マスクをつけることで“笑顔だと認識される確率がどれだけ減る（または増える）か”を示す。）
出典：行動経済学 18 巻（2025）pp.114-130

3. マスクが情動伝染を阻害する影響は子どもの観察者の間で顕著

マスクが一部の着用者の笑顔によるポジティブ感情の上昇を妨げる影響は、子どもの観察者の間で顕著でした（図 3、女児の笑顔を見たケース）。

また、観察者と着用者のそれぞれの性別を考慮した分析でも、マスクの感情への影響は、子どもの観察者の間でのみ、確認されました。

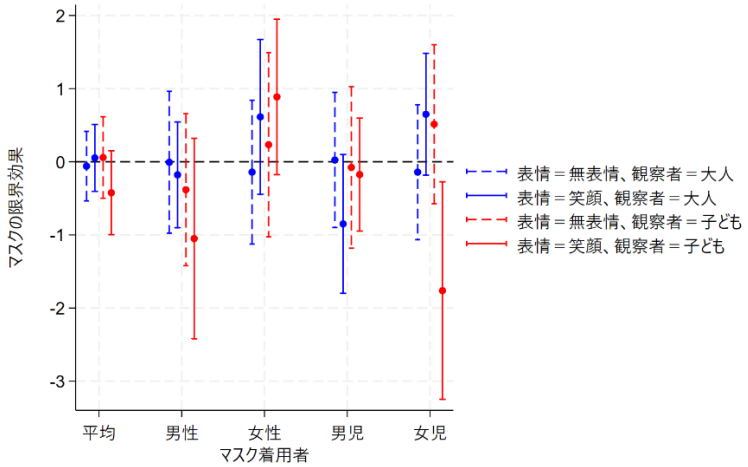

図 3. マスクのポジティブ感情への影響　(95%信頼区間)

（注: ここでのマスクの限界効果は、マスクをつけることで 観察者の“ポジティブ感情がどれだけ減る（または増える）か” を表す。）
出典：行動経済学 18 巻（2025）pp.114-130

■ 研究成果から得られる示唆

マスク着用により、表情認識が阻害される可能性については、これまでも実証研究がありました。本研究からは、観察者が大人の場合と子どもの場合とでは、マスクが影響を与えるポイントが異なることが示唆されました。大人の観察者にとっては、マスクは軽い微笑みの読み取りを妨げるため、職場や日常のコミュニケーションにおいて、特に男性の観察者へは、マスク着用時に言語的な補足やポジティブな非言語サインを発することが重要になることが示唆されます。一方で子どもの観察者にとっては、マスクは情動伝染を妨げやすく、マスク着用者が多い場面では、共感力などの非認知能力の発達に、より配慮した環境づくりが重要であることが示唆されます。

■ 留意事項

本研究では 4 名分の表情写真のみを使っているため、写真に写っている人物の顔つきや表情の特徴が、結果に影響している可能性があります。また、静止画像によるオンライン実験に依存しており、実際の対面状況での表情認知や感情の伝播を完全に再現しているわけではありません。さらに、オンラインで任意でご参加頂いた皆さまの回答を用いた結果であることから、結果の一般化には留意が必要で、本研究結果のみによる断定的な判断は避ける必要があります。

■ **研究メンバー**：准主任研究員 岩﨑敬子、主任研究員 村松容子

■ **研究助成**：本研究は公益財団法人かんぽ財団令和 4 年度の助成による成果です。

■ 掲載論文

題目：Impact of face masks on smile recognition and emotional contagion in adults and children
著者：Keiko Iwasaki, Yoko Muramatsu
掲載誌：『行動経済学』（英語誌名：*Journal of Behavioral Economics and Finance*）
掲載巻号・ページ：18 巻, pp. 114-130
DOI：https://doi.org/10.11167/jbef.18.114
掲載日時：2025 年 12 月 1 日

＜この件に関するお問い合わせ＞
株式会社 ニッセイ基礎研究所
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7｜www.nli-research.co.jp
保険研究部 准主任研究員
岩﨑敬子 Tel.03-3512-1882｜kiwasaki@nli-research.co.jp